

# ネットワーク



△東名高速道路のインターチェンジ入口付近



## 自然と生活の調和をめざし みんなの幸福を築くまち 伝 法

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。8月は富士見台、9月は吉永地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

近年は千代田町・弥生新田付近の製紙を中心とする工業地帯と、その南側に広がる水田地帯、さらに伝法町付近の住宅地帯など、住工農が混在しています。旧大宮街道沿いを中心とした地域では次第にベッドタウン化も進んでいます。

一方、大月線、弥生線、東名高速道路の富士インターチェンジなどの幹線道路に加え、西富士道路臨港線などの交通網が広がってきました。それに伴い車社会の郊外型飲食・ビジネス街も出現し、市の中心街形成への側面もうかがわれます。

このため、二十一世紀に向けて、住環境の整備、幹線道路と生活道路との調整整備、コミュニティの問題などが課題となっています。



△保寿寺で説明を聞く皆さん

積極的に参加している菅原儀兵衛さん(三日市・六十三歳)は、「私は元来、歩くのが大好きですが、好きでない人も十分楽しめるコースです。親子で参加すれば非行の防止になり、地域のコミュニケーションも育ちます。これから別のコースもつくりたいね」とアピール。

「ムムツ、またウエストがきつくなった」とお悩みの人も多いはず。そんな人にぜひお勧めしたいのが、伝法地区の「一万歩ふる里コース」。

これは、伝法公民館を起点に、市立博物館やかんかん堂、泰徳寺の氷石、伊勢塚古墳などの史跡九

カ所を毎月第一日曜日に歩くもの。所要時間は約一時間四十分で、距離は七・三キロ、約一万歩です。完歩すれば約二百カロリーの運動量となり、肥満はもちろん有効な成人病対策となります。

また、身近な史跡を知らない人も案外多く、まさに一石二鳥です。

五月にコース開きをし、六月七日の第一回は、四歳から七十三歳までの約五十人が参加しました。

「健康つくって触れ合いつくって」をモットーに、だれでも、いつでも、どこでも、気軽に参加できるのが最大の特徴です。

今回は、健康を増進しながら、郷土の歴史・文化の学習と地域のコミュニケーションづくりを進める「伝法地区歩こう会」の皆さんです。

おじやます  
おします

健康つくって触れ合い

伝法地区歩こう会





県内初のフルーツフェスティバルを富士文化センターで開いた

# 茅原初子さん

新浜(41歳)

「わからないことだらけ」の状態で一年かけて計画されたフェスティバルには、約九百人が集まり、まずは成功。入場者全員が、フラッシュバックから童謡まで幅広い音色を楽しみました。  
茅原さんは大阪生まれ、高校時代に吹奏楽部に属しながらも、フルートを手にしたのは十八歳のとき。フルートのすんだ響きにたちまち魅せられ、練習を重ねました。「フェスティバルはフルートを広める幕あけ、これから底辺を広げたい」と抱負を語ります。  
普段は四大家族のれつきとした主婦。幼稚園のマーチングバンドも指導するなど多忙で、「私の奥さんだれかいないかしら」と独り言。



人の心を和ませる音色のフルート。茅原さんは富士市で唯一のフルートクラブ「ミユースフルートアンサンブル」の代表者で、六月十四日に県内初のフルーツフェスティバルを富士文化センターで開きま

# まちか

## 我がまちを語る



# 望月正己さん

中桁(88歳)

目を見はる発展  
伝法地区は、今でこそ家が建ち並び、広い道路もできましたが、私が子供のころは、北部は山林、南部は水田の農業地帯でした。伝法小学校の児童数が四・五百人ぐらいの落ちついた農村でした。

その時分の楽しみといえばお祭り、五月三日の浅間さん、八月二十三日のお地藏さん(保寿寺)、お日待ちなどは、そりやあもう楽しみでした。  
市街化は、昭和四十三年に東名高速道路のインターチェンジ、四十五年に市庁舎ができてから進みました。  
市庁舎の周辺は、かつて「瓜島のどぶつ田」と呼ばれ、あまりよい場所ではありませんでした。現在の発展した街並みは、昔を知っている者にとって本当に目を見はるものがあります。ただ、反面、農家としては田畑がなくなつてきて寂しく感じるときもありますね。



お化け屋敷に来てね 伝法青年会



ハーモニカ人生 遠藤紀男さん(田端)

三歳から始めたハーモニカ。小さいころは、練習がたらくて家出したこともあるそうですが、昭和四十八年、国際コンクールで二位に入賞。「ハーモニカは、簡単なようで奥が深い。日本の民族楽器だと思っています」とハーモニカに対する愛情は人一倍。遠藤さんは今、編曲、作曲、演奏会、講演会と多忙な毎日を送っています。



カブスカウトを二十年 鈴木節子さん(吉原上中町)

カブスカウトのリーダーとしてもうすぐ二十年目を迎える鈴木節子さん。関係者の間では「カブの節ちゃん」と呼ばれ、かなり有名。持ち前のファイトと明るさで、現在、女性では日本に四人しかいないリーダーの養成者となっています。「夏は野外活動の季節。ポロイスカウトでの自然体験は素晴らしいですよ」とニコリ。

# あの人この人こんなこと



「エキサイティング青年、チャレンジ87」がスローガンの伝法青年会は、八月二日に伝法公民館で「お化け屋敷」を開きます。暗幕を張り、自分たちで刈ってきたアシで飾りつけをするという力作です。お化けもフランケンシュタインから素顔でも十分のお化け(う)までゾクゾクとすること間違いなし。皆さんお誘い合わせてどうぞ。